

希学園 第411回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第411回公開テスト 小4国語 解説動画(2026年8月2日実施)	https://vimeo.com/1214893808/fa97964318

(解答らん)

1

雨具

暗記

見守
る

目安

年始

予定

2

イ

こ
2 a

か
b

る
c

め
d

ウ

(記述題)
4

嵐
5

法
5 (5 完 答)

工
6

ク

ア
8

ア
9

工
10 A

ア
B

3

エ

川
2
底
(2 完 答)

イ
3 a

ア
b

ア
c

地層
4

3
5

ア
6
下
イ
上
(6 完 答)

タ
7
ン
(7 完 答)

そ
8
か
(8 完 答)

古生物学
9

2

ネコを飼っていいという人がい
る
か
ど
う
か
に
つ
い
て
の
情
報
。
4

(同意可)

配 点

1・2・3 各2点×13=26点
2 4 6点
その他 各4点×7=68点
〈計〉100点

1

- 1 「あめ」が、下の「ぐ」とつながるときに「あま」に変わったもの。
- 2 「暗」の字には、「見なくても言えるようにおぼえる」という意味がある。
- 3 「守」の字には、「保護する」だけでなく「見張る」という意味もある。
- 4 「おおはその見通し、基準」という意味のことばである。
- 5 新年を祝い、特別なつきあいのある人のところにあいさつに行くことである。
- 6 「予」は「あらかじめ」という読み方があり、「前もって」という意味がある。

2

「チキン！」 いとうみく ※ 問題作成の都合上、一部表記を改めています。

- 1 「おだやか」でなくなった原因は真中さんのことばである。「コラー」とさけんだことから、嵐君が怒ったために真中さんともめて、大きわざになったのである。イの直前まで、真中さんも「おとなしく」していた。
- 2 aは、十分ではないが一応のレベルにあるときに使うことばである。bは、横からじょうだんを言ってからかうことで、「茶化す」と書くこともある。cの「ひるむ」は、おじけづいてしりごみすること。dは、相手を言い負かしてだまらせることである。
- 3 1はイ、2はア、3はエになる。1と2はややまぎらわしいが、1は「盛りながら」、2は「知ってるわけないか！」に注目する。3は「本馬君」が主語になるので、受け身の「のせられて」になる。
- 4 「知ってるわけないか！」を受けて、「そんなくらの情報いくらだって(知っている)」と言っているのだから、「ネコ飼ってもいいって人」についての情報である。ただし、()のあとの「かどうか」につながるように、うまくことばをおぎなわなければならぬ。
- 5 嵐君が怒っていることを「やばい」と思っているのだから、なんとかしなければならぬはずである。そこで「必死になって考えた」のだが、「嵐君をなだめる方法」は思い浮かばなかったのである。
- 6 ア・イ・ウは、嵐君が怒っていることに対して、けっしてひるまずに平然としているようすである。エは、嵐君とともにあまりに行こうと決断したところになる。
- 7 カ・キ・ケは、嵐君のはげしい怒りが感じられるが、クは、真中さんがいきなり立ちあがったので、さすがの嵐君も一瞬たじろいだことを表している。
- 8 嵐君が「ドスのきいた声」ですごんだときのみんなの反応である。直後の「なのに」に注目すると、ひるまずに平然と言い返す真中さんとは反対の態度をとったことがわかる。
- 9 「なんだよ、なんだだよ」ということばからも、そのつもりがなかったのに「ぼく」の頬を蹴ってしまったことにおどろき、うろたえていることは明らかだろう。
- 10 ア・エを見くらべると、「ぼく」についてはウ・エ、「真中さん」についてはア・イから選ぶことになりそうである。「ぼく」は人にきらわれるようなことはさけたいようだが、「よりよく見せよう」というのは言いすぎだろう。「真中さん」もトラブルを起こしやすいことはたしかだが、「わざと」ではなく、正義感から出た結果、トラブルになるようである。また、「だれに対しても攻撃的」というのもあてはまらないだろう。

3

「0.ミリのタイムマシン」 須藤 斎 ※ 問題作成の都合上、一部表記を改めています。

- 1 Aは、はじめの一文からイ、Bは、「これまでの…」よりあとの内容からウ、Cは「地球の過去をのぞきみる」ということからアになる。Bに「アンモナイトや恐竜の化石」とあるが、これは地層ができた時代の説明をするために書かれたものであり、化石にどんなものがあるかということについての例ではない。
- 2 直後の例のあと、「実際には…」としてまとめている。「石や土、砂やどろが積もって」ということばもそのまま書かれており、まようことはないだろう。
- 3 「ぢ」を使うのは「ちぢむ」「ちぢれる」の場合か、もともと「ち」と発音することばの前に別のことばがついてにぎる場合のどちらかである。aの「ちぢこまる」は「ちぢむ」「ちぢれる」と同じ種類のことばになる。bは上に「み」とあるが、別のことばがついているわけではないので「じ」になる。cは「ち」のあとに続いているが、「ちぢむ」の仲間ではない。
- 4 「川底や海底にできた地層」が「わたしたちが生活している場所の近く」に姿をあらわしたので「目にすることができる」のである。文脈から見て「化石」にはならない。
- 5 1は、「積もった砂やどろに動物の死体があれば化石になる。(だから)、化石は地層の中から出てくる」、2は、「あたたかい海にはサンゴがいる。(だから)、サンゴの化石があれば、あたたかいところでできた地層だ」、4は、「火山が噴火すると火山灰や溶岩が飛びちる。(だから)、地層の中の火山灰や溶岩の分布を調べると、そのころの火山のようすがわかる」というつながりになる。3は、「あたたかいところにできた地層」に対して、「寒いところまでできた地層」について書かれているので、「だから」ではなく「しかし」などのことばがはいいる。もとの文では「反対に」になっていた。
- 6 「上へ上へと新しい層が積もっていきます」、「すぐく下のほうにある地層に生きものの化石があれば、ものすごく昔に生きていた生きものの化石だ」とはつきり書かれている。
- 7 最後の一文に「この本のタイトルのように」として、「タイムマシン」ということばが出ている。
- 8 このあとの文に「…わかります」「…知ることができるので」と書かれているので、字数に合うことばをさがせばよい。
- 9 「地質学の一つ」の学問で「化石」にかかわるものである。